



カルガリー空港

* 共和会創立60周年にあたり *

～地域に選ばれる新たな医療法人づくりを目指して～

特定医療法人 共和会
理事長 山本 直彦

明けましておめでとうございます。

平成最後の新年を迎えました。昨年は共和病院創立60年という節目を迎え、今年には共和会として法人化して60周年にあたります。そして、いよいよ3月には新館が完成し、今年には名実共に新生の年となります。

しかしながら、共和会を取り巻く環境は厳しいものがあります。昨年4月には高齢者の医療ニーズが増大する2025年問題に向けて、医療・介護・福祉のトリプル改定がなされ、これらの見直しや改正は、将来の少子高齢社会に対応するため、医療と介護の提供体制の変革を目指すものであります。

アメリカ戦略国際問題研究所上級顧問のエドワード・ルトワック氏は著書「日本4.0」(文春新書)の中で、江戸時代以降の400年間の日本の戦略的システムを「日本1.0:江戸」、「日本2.0:明治」、「日本3.0:戦後」と分けて、今後の日本の危機的状況に対応するために、「日本4.0」を提唱し、包括的な戦略システムをつくる必要があると述べています。

医療の世界でも、急速な人口動態の変化を見据えて、労働人口の減少(外国人労働者受入れ)、働き方改革、人工知能(AI)、遺伝子診断、ゲノム医療など、時代の変遷につれて、これまでの認識や概念・価値観に対

して発想の転換(パラダイムシフト)が必要となります。そのためには、これまでの人や設備といったストラクチャー中心から、取り組みや成果中心のプロセス・アウトカム中心へ、医療従事者の負担軽減や働き方改革の推進(タスクシェアやタスクシフト)など、機能分化、機能強化、多職種連携を図り、質の高い効率的かつ効果的な診療体制の整備が急がれます。こうしたパラダイムのシフトは、当然ながら精神科医療も同様であり、「待つ医療」から「出かける医療」へ意識の転換が求められます。

民間病院として、これからの厳しい医療環境を生き抜くために、地域のニーズはどこにあるのか?地域に選ばれるためには何が必要なのか?そのためには、入院したい病院、通いたい外来、入居・入所したい施設、利用したい事業所、働きたい職場となるように、共和病院、共和会創立60周年の節目、そして新館完成にあたり、今までになかった、今までの枠にとらわれない「新しい病院づくり」を目指していかなければなりません。変革には往々にして、良質な医療、健全な職場環境を見失いがちになります。常に、当法人の理念である「優しい医療・楽しい職場」をしっかりと見据えながら推し進めてまいり所存です。



日本医療機能評価機構
認定シンボルマーク

TOPICS・EVENT

わたしのしごと

薬剤師 — 木谷 智恵 —

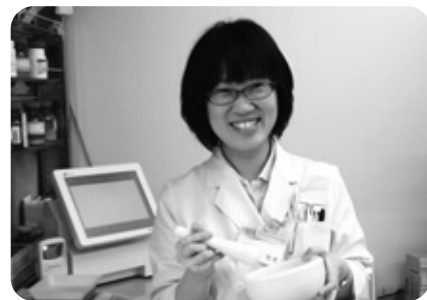
病院薬剤師の仕事は大きく分けて、薬局内業務と病棟業務の2つに分類されます。

薬局内業務では主に調剤、医薬品管理、保険調剤薬局からの外来処方箋の疑義照会対応を行なっています。ここでは主要な業務である調剤について説明します。調剤とは、医師の処方箋に従って患者様のお薬を調製する業務です。「処方箋の通りに薬を準備するだけなら誰にでもできるんじゃない？」と思う方もいらっしゃると思います。しかし、調剤とはただ単に薬を準備するだけの業務ではありません。用法・用量、薬の相互作用、検査値、副作用など、様々な項目を確認した上で薬の調製を行います。さらに、調製した薬は別の薬剤師が監査を行い、患者様のお手元に届くようにしています。

病棟業務は薬剤管理指導業務と病棟薬剤業務に分類されます。薬剤管理指導業務は、患者様やご家族が服薬の目的を十分に納得し、服薬を実行していけるようにお薬の説明を行う業務です。

当院は、内科の患者様には入院時および退院時の薬剤管理指導、精神科の患者様には服薬自己管理に合わせた薬剤管理指導を主にこなしています。病棟薬剤業務とは医師・看護師等の医療従事者の負担軽減および薬物療法の有効性・安全性の向上に役立つ業務を指します。具体的には、調剤薬の定期カートセット、持参薬確認、病棟配置薬の品質管理、医療従事者への薬剤情報の提供などが挙げられます。

患者様に安全かつ適切な薬物治療を受けていただけるよう、毎日の業務を丁寧かつ正確に行うよう心がけています。



診療放射線技師 — 須藤 雅俊 —

私たち診療放射線技師は、主にエックス線を使って様々な検査をし、病気やケガの診断・治療に役立つ画像を提供する仕事をしています。

私たちが行なう検査は、体の状態が思わしくない患者様へも身体的に無理なお願いをする事が多くあるため、患者様にとっては辛いことだろうと思います。ですから私は、できる限り患者様の気持ちに寄り添うことを大切にしています。

不安や疑問に思っていることがあれば、緊張せずに話しかけてほしいと思いますので、常に患者様の目線になって検査の説明をしたり、何か訴えがあれば、できる限り向き合うように心がけています。

しっかりと患者様とコミュニケーションをとって検査ができた時には、感謝の言葉をいただけることもあり、そんな時にはこの

仕事にとってもやりがいを感じるすることができます。

身につけるべき知識や技術は山ほどあるので、確実に向上させ患者様のためにどんどん還元して行く事、その上で最大限よい医療の提供をするために安心感や満足感を与えられるような診療放射線技師を目指していると思います。

もし何か気になることあれば気兼ねなく話しかけてください。



臨床検査技師 — 若林 萌子・水谷 久美 —

みなさんは病院で検査を受けたことがありますか？私は健康よ！という方も、健康診断で採血や検尿、心電図検査を経験したこともあるでしょう。それらを検査しているのが臨床検査技師です。

臨床検査は、患者様から採取した血液や尿・便・細胞などを検査する「検体検査」と、心電図や脳波、超音波検査など患者様を直接検査する「生理機能検査」の2つに大きく分けられます。

病気になると、体の中ではさまざまな変化が見られます。検体検査は、血液や尿などの中に含まれる成分や細胞などを分析することによりその変化をとらえます。生理機能検査は、心臓や脳などの動きを電気的に波形として記録したり、身体の内部の状態を超音波を用いて画像として観察し、変化をとらえています。

臨床検査は、医師が患者様の身体の状態を客観的に診るために

不可欠なものであり、臨床検査技師はその手助けをする重要な仕事です。単に検査データを集めるだけでなく、より正確に分析・評価し報告する役割を担っており、その結果が正しい診断と治療に繋がります。あまり知られていない仕事ですが医療の現場に不可欠な存在です。これからも「縁の下の力持ち」としてチーム医療に貢献していきたいです。



火の用心 マッチ一本火事のもと

拍子木を打ちながら近所を巡回する風景はもはや昔のお話になりましたが、大府市では自治会を中心に夕方の巡回を実施しています。

身の引き締まる寒さの中、マッチは使わずとも暖房器具を使用することは多いと思います。

ご家庭でも家電のつけっぱなしに注意しながら、防災に努めてみえるのではないのでしょうか。

当院では、毎年春・秋の2回にわたり防災訓練を実施しています。

2016年4月に防火防災委員会が発足してからは、委員会主体で訓練を行なっています。

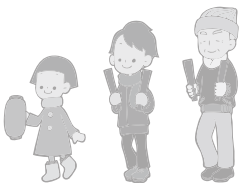
火災訓練では、スモークマシンを使用することで臨場感をだし、本番さながらに初期消火活動、救護活動を行い、有事の際に備えて日々鍛錬しております。

皆さんは小学校で避難する時の合い言葉をどの様に習いましたか？「お箸」の方もみえれば「お菓子」の方もみえるでしょう。「押さない・走らない（駆けない）・しゃべらない」中には、最後に「も」をつけて「戻らない」と学んだ方もみえるようです。大切なのは、適切な情報をキャッチし、冷静に判断・行動することです。不安から冷静さを失いがちですが、一人で対処せず、まずは大きな声を上げて人を呼び、助け合うことです。

もちろん、火事を出さないことが一番です。日頃から寝たばこはしない。ストーブ・ガスコンロの消し忘れに注意すること。家電の配線がむき出しになっていたり、ほこりがかぶっていないかなどをチェックすること。消火器の設置などを心得ましょう。また、日頃から近所とコミュニケーションを図ることで、いざという時に助け合える関係性を作っておくことも大事になります。

寒さがまだまだ続きます。新しい年の始まりに悲しい災害に巻き込まれないよう日頃から注意していきましょう。

防火防災委員会一同



みつばクリニック

当クリニックは平成11年2月に開院し、地域のみなさまに支えられ20年を迎えます。

患者様は多くが近隣の0歳～100歳台と幅広い年代層の方で、1日に50人～80人の方が来院されます。

慢性疾患の患者様はほぼ顔なじみで、家族3世代で通院される方もあり、地域のホームドクター的存在になっていると思います。

0歳の乳児がお母さんと診察を受ける微笑ましい姿に私達職員は癒される事もあります。そうかと思えば、ここ数年は高齢者の患者様が増え、認知症の初期症状を来院時に早くキャッチし、ご家族への働きかけを行ないます。また独居の方などへは、市の担当部署との連携を図り、患者様が地域でその人らしく生活、療養できるように日常の外來診療の中で援助する事を心がけています。

これからも、みなさまの「かかりつけ医」として、心の通い合う暖かな地域医療を目指し、元気を取り戻すお手伝いが出来るよう精進していききたいと思います。

看護師 小島 延子



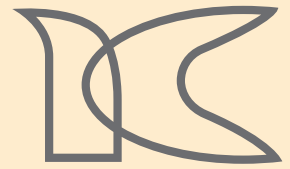
編集後記



新年明けましておめでとうございます。今年の風水のラッキーカラーは赤、白、ゴールドということで、今年のWA!はゴールドになっています！ゴールドはDrコバさんによると21世紀のラッキーカラーでもあるようです。そんなゴールドの

意味を少し調べると「発展」を意味するのだとか。奇しくも平成が終わり新しい次の時代が始まる年であり、共和病院もついに新館が完成します。私も身のまわりにさりげなくゴールドを取り入れ、一緒に発展していければと願っております。

広報誌委員会 伊東 舞子



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは

- まごころをこめてやすらぎと癒しの提供
- あなたの安心と希望ある地域生活の支援
- それぞれの専門性を活かした最良の医療・介護サービスの提供

私たちが目指す『楽しい職場』とは

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切に、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報は保護されます。
5. あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。

新館の外観全体が見えてきました

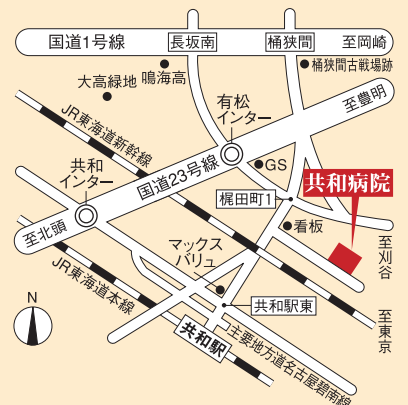


2016年の秋に着工した新館工事も3年目に入り、1期工事で完成した部分に2期工事が繋がり、ようやく外観の全貌が見えてきました。

館内は水道配管、電気、ガス等を配置しながら、天井・壁・床を順次仕上げています。空間が形になっていくのを見ていると、ここで働ける日が楽しみになってきます。

4月になると新館での外来診療が始まりますが、工事を並行しながらの引越となります。入院・外来患者様およびご来院の皆様には、引き続きご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

総務課 丸山 浩史



特定医療法人 共和会

共和病院

愛知県大府市梶田町2-123

診療科目

内科・消化器内科・呼吸器内科・神経内科
精神科・心療内科・循環器内科・肛門外科
放射線科・リハビリテーション科・歯科

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>

★ラジオ番組★

毎月 第2月曜日19:00～19:30

MID-FM 76.1

ラジオパーソナリティー
共和病院 副院長 松下 直美

こころの病を持たれている方をはじめとする皆さまに温かいメッセージをお送りします。是非お聞ください。

おもいやり共和の
キラキラチアナイト

当院HPから過去の放送分も聴くことができます。

お知らせ

3月2日(土) 第10回 共和病院研究発表会を開催します。
場所／共和病院 C館4階 多目的ホール